

第4学年1組 体育科学習指導案

令和3年12月17日(金) 5校時
第4学年1組(男子14名・女子11名)
場 所 小林市立南小学校体育館
指導者 井上 伸也

1 単元名 体づくり運動(多様な動きをつくる運動)

2 単元の目標(第3学年及び第4学年の2学年分)

- (1) 体づくり運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりすることができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすることができるようにする。
 - イ 多様な動きをつくる運動では、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができるようにする。(知識及び運動)
- (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間力等)

3 運動の一般的特性

中学年の体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「多様な動きをつくる運動」で構成され、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、低学年で学習した様々な基本的な体の動きに加えて、更に多様な動きを身に付けたり、動きの質を高めたりする運動である。

中学年では、低学年での体づくりの運動遊びの学習を踏まえ、手軽な運動を行うことを通して自己の心と体の状態に気付いたり、みんなで関わり合ったりするとともに、多様な動きをつくる運動の行い方を知り、体のバランス、体の移動、用具の操作、力試しのなどの様々な動き及びそれらを組み合わせた動きを身に付け、様々な基本的な体の動きの幅を更に広げていくとともに、動きの質を高め、高学年の体づくり運動の学習につなげることが求められる。

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級のは、明るく素直で様々な活動に積極的に取り組む児童が多い。また、日常的に外遊びを行い、鬼ごっこやドッジボールをする姿が見られる。

一方で、体を動かす活動よりも室内で静かに過ごすことを好む児童や、これまでに運動経験が極端に乏しい児童がいるなど、児童によって運動に対する意識の差が見られる。

これまでの体育科の学習を通しては、学級全体が温かい雰囲気の中、前向きな声をかけ合いながら活動に取り組む姿が見られた。4月に行った体ほぐしの運動では、体を動かすことの楽しさや喜びを感じたり、友達と関わり合いながら運動をする喜びを味わうことができた。

(2) 「知識及び運動」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性」の習得状況

「知識及び運動」に関しては、4月に行った「体づくり運動」の中の「体ほぐしの運動」において、「体を動かすと楽しい気持ちになる」ことを実感し、心と体の変化に気付いたり、みんなと関わり合うことの楽しさに気付いたりすることができた。

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、「ソフトバレーボール」「ティーボール」などで作戦を話し合ったり、器械運動でお互いの技を見合い、アドバイスをしたりする活動を行ってきた。自分たちで話し合った動きが成功したときの喜びを味わうことができた一方、話合いに参加することができない児童も見られた。

「学びに向かう力、人間性」に関しては、これまでに「グッドスポーツマン」を意識させながら授業を進めてきた。勝敗を受け入れる態度であったり、うまくできない友達へどのような声かけをしたら良いかを考

えさせたりしてきた。お互いに励まし合ったり、できなかった友達がうまくできたときには一緒に喜び合ったりする温かい雰囲気が見られた一方、勝敗に関しては素直に受け入れられなかったり、負けた原因を他の友達に押しつけたりする姿も見られた。今後も継続して指導していく必要がある。

(3) 体力の状況

	男子					女子				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	2	4	7	1	0	3	3	3	1	1
%	8	16	28	4	0	12	12	12	4	4

今年度の体力テストでの学級全体の総合評価の割合は、A・B段階の児童が男女合わせて48%と半数近くおり、体力の高い児童が多い。しかし、D・E段階の児童も男女合わせて12%おり、全体的な体力の底上げをすることが必要である。

特に女子のE段階の児童は、これまでの生活の中でも運動の経験が非常に少なく、体育科の授業においても支援を必要としている。しかし、学級全体の雰囲気が温かく、前向きな声かけをしている姿が多く見られる。E段階の児童も、友達の励ましの中、前向きに学習に取り組む姿が見られる。

今後、運動のポイントを明確にし、お互いに声をかけ合う活動を継続していけば、全体的な体力の向上が期待できる。

5 学習を進めるに当たって

本単元では、「用具を操作する運動」を主運動として行い、その中で「多様な動きをつくる運動」の中でも、「体のバランスをとる運動」と「体を移動する運動」を組み合わせしていきたい。

単元を構成するに当たっては、3つの用具を使用した動きを中心に行い、基本的な操作を全体で確認し運動に取り組んだ後、グループで話し合いながら動きの組み合わせを考える活動を位置づけていく。

1つ目の動きは、フープを用いた動きである。大小のフープから自分が操作しやすいフープを選び、片手でつかんで回す運動や、フープを安定して転がし、回転するフープの中をくぐりぬけたり片足を入れてステップを踏んだりする運動を行う。運動に応じて、体をうまく使ってフープを回転させたりリズム良く跳んだりする動きを高めていくようにする。

2つ目の動きは、ボールを用いた動きである。投げ上げたボールを落とさないように、いろいろな方向に歩いたり走ったり回ったりしながら捕る運動や、相手にボールを投げたり、投げられたボールを手や足で捕ったりする運動を行う。狙いを定めてボールを投げたり、タイミング良くボールを捕ったりする動きを高めていくようにする。

3つ目の動きは、とびなわを使った動きである。短なわを用いていろいろな前跳び（片足、グーパーなど）をしたり、長なわを用いて跳んだりする。なわを用いることで、回旋の仕方や跳ぶリズム、なわに入るタイミングなどの動きを高めていくようにする。

単元はじめのオリエンテーションでは、主に3つの用具を使った運動を行うことを伝え、基本的な動きを試してみることで、今後の学習でどのような運動を行っていくのかを全体で共通理解させたい。また、主に使用する3つの用具で、どのような動きを身に付けることができそうか（捕る、投げる、回転させる、跳躍するなど）についても考えさせたい。

単元前半では、3つの用具を使用した基本的な動きを全体で練習し、多様な動きをつくるための基本的な運動の仕方を理解させる。その際に、動きのポイントを全体で確認しながら授業を進めることで、単元後半の動きを組み合わせる時にも、動きのポイントを意識できるようにさせたい。また、それぞれの授業の後半では条件を変えた動きを児童と一緒に考え、数種類行ってみることで単元後半のグループ毎に動きを考える際のヒントとさせたい。その際に、「方向・体の向き・人数・用具・距離・姿勢・時間・やり方」の運動の条件を提示して指導を進めることで、児童から様々な動きを導き出させたい。児童の思考が停滞してしまう場面が見られるようになったら、教師の方から動きを提示したり、工夫が見られる児童の動きを取り上げて紹介したりすることで、児童の発想が広がるよう支援していく。

単元後半では、3つの用具の中から、自分がかっこいい工夫した運動に取り組みたい用具の一つを選び、同じ用具を選んだ友達とグループを作り、用具と色々な動きを組み合わせた運動や条件を変えた動きを考える活動に取り組ませる。その際、グループの人数などに極端な差が出ないように配慮したい。その後、自分たち

が組み合わせたり条件を変えたりして行った運動を、他の用具を選んだ友達にも実際にやってもらう場を設定する。

単元の終わりには、違う用具を選んだ友達に自分たちが考えた動きを紹介し、活動してもらう時間を取り入れることで、全員が全ての場で、組み合わせた動きや条件を変えた活動を行うことができるようにする。また、自分たちが考えた動きを紹介するだけでなく、動きのポイントを示したりうまくできない友達にポイントを押さえたアドバイスをする活動も取り入れる。この活動を行うことで、「動きのポイントを他者に分かりやすく伝える」という意識や「友達のアドバイスで苦手な動きもできるようになった」「運動が苦手な友達も自分たちの声かけでうまくできるようになった」という温かい雰囲気、「自分たちで授業を作り上げた」という満足感などを実感させたい。

本時においては、自分たちの活動を通して運動のポイントを明確にしながら、その内容を分かりやすく伝えられるよう意識して活動に取り組ませたい。授業の「はじめ」にタブレットを使用し、今までに出てきた運動のポイントを示し、本時で児童が考えるアドバイスの手助けとさせたい。「なか」の動きのポイントやアドバイスを考える段階では、ただ「こんな動きを考えました」と紹介するのではなく、これまでの学習を踏まえた動きのポイント等をふり返らせながら、アドバイス・動きのポイントを考えさせたい。このように他者にも伝わりやすいような動きのポイントを考えながら運動を組み合わせることで、自らの動きの質も高まることを期待したい。自分が、うまくできないことを友達に伝えられない児童には、学級担任が「今までに出てきたポイントの中で、どれが難しいかな？」や「どこまでならできそう？」とこれまでの学習をふり返りながら活動していくことで、自分の困り感を伝えられるような手立てを取っていききたい

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめごとの評価規準	<p>次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わったり合ったりしている。 ・多様な動きをつくる運動では、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせる運動をしている。 	<p>自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。</p>
単元の評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ①多様な動きを作る運動を知り実際に動いたり、動きのポイントを見つけて書いたりすることができる。 ②フープを用いて転がしたり回転しているフープの中をくぐり抜いたり、片足を入れてステップを踏んだりすることができる。 ③ボールを用いて相手に向かって投げたり、投げられたボールを手や足で捕ったりすることができる。 ④短なわを用いて連続片足跳びや交差跳びをしたり、長なわを用いて連続回旋跳びをすることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基本的な動きを高めるために友達の運動の行い方と自己の行い方を比べるなどして、自己の課題を見付けようとしている。 ②これまでに行った運動の中から更に行ってみたい運動を選び、人数や用具などの条件を変え、新たな運動の行い方を考えている。 ③基本的な動きを身に付けるための運動のポイントや行い方について、友達と考え合う際に、自己の気付きを発表したり大切だと感じことを友達に教えたりしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①多様な動きを作る運動に進んで取り組もうとしている。 ②運動を行う際にきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④友達の考えを認めたり、互いの気持ちを尊重し合ったりしようとしている。 ⑤活動の場の危険物を取り除いたり、用具や活動する場の安全を確かめたりしている。

7 指導と評価の計画（7時間）

時間		1	2	3	4	5	6 (本時)	7
指導内容	知	①知識 (多様な動きを作る運動について)	②技能 (フープを用いた運動)	③技能 (ボールを用いた運動)	④技能 (とびなわを用いた運動)			
	思					①思判 (自己や仲間の課題発見・課題解決)	②思判 (自己や仲間の課題発見・課題解決)	③表現 (他者に伝える)
	態	①愛好的 (積極的な取組)	②公協 (仲間と励まし合い)	③公協 (準備や片付け)		⑤健安 (場や用具の安全)		④責参 (仲間との認め合い)
学習過程	10分	1 集合 整列 あいさつ 2 主運動につながる準備運動						
		3 オリエンテーション	3 めあての確認し、本時の見通しをもつ。					
	10分	4 フープを使った基本的な動きをする。	4 ボールを使った基本的な動きをする。	4 とびなわを使った基本的な動きをする。	4 3つの用具を使った時のそれぞれの動きのポイントを確認する。		4 ローテーションで各グループの組み合わせた運動に取り組む。	
	20分	4 試しの運動をする。	5 動きのポイントの確認する。 6 ポイントを意識して運動に取り組む。 ・フープを回したりくぐったりする動き ・ボールの投げ上げやパス ・とびなわを使った跳躍		5 自分がさらに取り組んでみたい用具を選択する。 6 グループで基本的な動きを組み合わせた条件を変えたりした動きに取り組む。	5 グループで組み合わせた動きを考える。 6 ポイントを整理し、次時につなげる。	・ボール→フープ→とびなわの順で行う。	
	5分	5 後片付け・ふり返りを行う。	7 本時のふり返りをし、運動のポイントを確認する。			7 各グループでポイントを整理し、他の友達に伝えられるようにする。		5 単元を通してのふり返りをする。
評価の重点	知	①知識 【観察・カード】	②技能 【観察・カード】	③技能 【観察・カード】	④技能 【観察・カード】			
	思					①思判 【カード】	②思判 【観察・カード】	③表現 【カード】
	態	①愛好的 【観察】	②公協 【観察】	③公協 【観察】		⑤健安 【観察】		④責参 【観察】
準備物	ボール フープ とびなわ	フープ	ボール	とびなわ	ボール フープ とびなわ			
カリ・マネ	保健領域：健康な生活（第3学年）、体の発育・発達（第4学年） 道徳領域：相互理解・寛容、規則の尊重、よりよい学校生活・集団生活の充実							

8 本時の学習（6／7時間）

（1） 本時の目標

- これまでに行った運動の中から更に行ってみたい運動を選び、人数や用具などの条件を変え、新たな運動の行い方を考えたり、動きのポイントを分かりやすく伝えたりすることができるようにする。

（思考力、判断力、表現力等）

（2） 本時の評価項目

- れまでに行った運動の中から更に行ってみたい運動を選び、人数や用具などの条件を変え、新たな運動の行い方を考えたり、動きのポイントを分かりやすく伝えたりしている。（思考、判断、表現）

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点		○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する状況」と判断される児童への手立て
		T 1 体育専科	T 2 学級担任		
はじめ	1 整列・あいさつ				
	2 準備運動をする。 ・音楽に合わせたサーキット運動を行う。	・自分がどのように体を動かしているのか意識できるように、一つ一つの動きを丁寧に行うよう声かけをする。	・動きが苦手な児童に対し、直接具体的な体の動かし方をアドバイスする。		
	3 本時のめあてを確認する。				
	自分たちが選んだ運動について、組み合わせや条件を変えた運動を考えたり、友達に伝えるような動きのポイントを考えたりしよう。				
なか	4 グループに分かれ、今までに行った運動の確認をする。	・動きのポイントを確認できるように、これまで取り組んできた運動をタブレットでふり返ったり、実際に行わせたりして動きのポイントを確認する時間を設ける。	・運動が苦手な児童のそばに行き、ポイントを確認しながら一緒に動いてみる。		
	5 運動の組み合わせや条件の変化を考える。 ・人数、速さ、方向、別の用具を使用した運動との組み合わせ ・長縄をしながらのボールパス ・フープを両手、おなかの3カ所で回す。 ・2人で向かい合って一つの短なわを跳ぶ、など	・今までの学習を基に「こんな動きをしてみたい。」「これを組み合わせてみたら面白そう。」という児童からの自由な発想が出るよう声かけをする。	・意見が出てこず、話合いが停滞しているグループに参加し、今までの学習をふり返らせながら、アドバイスをする。	○組み合わせや条件を変えた運動を考えたり、友達に伝えるような動きのポイントを考えたりすることができる。 (観察・カード)	友達が考えた動きのポイントを意識しながら活動できるように一緒に動きながらアドバイスをする。
	6 動きのポイントを考える。 ・周りの人も「せーの」と声をか	・実際に自分たちで組み合わせた運	・動きのポイントを聞いて回ること	【Aの例】 自分たちが考えた動きをより良	

	<p>けてタイミングをとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おなか→腕の順でフープを回す。 ・短なわをゆっくり回し、1回旋2跳躍で跳ぶ。 など 	<p>動や条件を変えた動きを行わせることで、動きのポイントを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントまで考えられたグループには、さらに相手を意識させるために、次時で使用する「紹介原稿」を作成させる。 	<p>で、他のグループの友達に伝わりやすい説明になっているか確認する。</p>	<p>く行うことができるための動きのポイントを考えることができる。</p>	
まとめ	<p>7 学習のふり返しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えた動きのポイントを再度確認し、次時は実際に他の友達にやってもらうことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、自分たちが考えた動きのポイントを、他のグループの友達に伝える活動をするを告げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導を要する児童のワークシートを確認し、書けていない場合は同じグループの友達のワークシートを参考に記入させる。 		